

日本人やせ妊婦の母体背景および周産期予後に関する後方視的検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 春日, 義史, 樋口, 隆幸, 玉川, 真澄, 鈴木, 毅, 金, 善恵, 上野, 和典, 林, 保良, 染谷, 健一, 中田, さくら メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3291

日本人やせ妊婦の母体背景および周産期予後に関する後方視的 検討

○春日義史、樋口隆幸、玉川真澄、鈴木毅、金善恵、上野和典、林保良、染谷健一、中田さくら

川崎市立川崎病院産婦人科

【目的】 やせ女性の妊娠では低出生体重児や早産リスクが指摘されているが、世界的には肥満が周産期予後に与える影響が問題となっているため、やせに関する知見は未だ少ない。今回我々は、自験例をもとに日本人やせ妊婦の母体背景および周産期予後について後方視的に検討した。

【方法】 対象は 2014 年～2016 年末までに当院で周産期管理を行った日本人単胎妊婦である。やせ妊婦（非妊時 BMI<18.5：やせ群；363 例）と標準体格妊婦（18.5≤非妊時 BMI<25.0：標準群；1728 例）に分類し、分娩時年齢、非妊時から分娩までの体重増加量、健やか親子 21 推奨体重増加妊婦の割合（やせ群：9-12kg、標準群：7-12kg）、分娩週数、妊娠 37 週未満の早産、出生体重を比較検討した。

【結果】 分娩時年齢はやせ群で有意に若く（29.6±6.0 歳 vs 31.1±5.8 歳、 $p<0.01$ ）、特にやせ群には若年者（20 歳未満）が有意に多かった（6.3% vs 2.1%、 $p<0.01$ ）。非妊時から分娩までの体重増加量は両群で同等であったが、健やか親子 21 推奨体重増加量を満たした妊婦の割合はやせ群で有意に低率であった（39.7% vs 55.9%、 $p<0.01$ ）。また、やせ群では分娩週数が有意に早く（38.4±1.7 週 vs 38.7±1.7 週、 $p<0.01$ ）、妊娠 37 週未満の早産も有意に多かった（10.7% vs 6.7%、 $p<0.05$ ）。出生体重もやせ群で有意に低値であったが（2846±416g vs 2973±431g、 $p<0.01$ ）、small for gestational age (SGA)の割合は両群間で同等であった。

【結論】 標準群と比較し、やせ群は若年者が多く、健やか親子 21 推奨値よりも体重増加量が少ない症例が多かった。また、やせ女性では早産が多く、児の出生体重が低値であったが、SGA 発症との関連は認められなかった。